

日本農芸化学会 2018 年度大会
ランチョンセミナー (LS1-5)

新規測定法開発が切り開いた アレルギーの新パラダイムと展望

— 経口免疫寛容を導く Low affinity IgE と High affinity IgE が誘発する食物アレルギー —

2018 年 3 月 16 日 (金) 12:30 ~ 13:20

会場: B07 会場 (名城大学 共通講義棟 南館 3F S301)

先進国で増加傾向を示している乳幼児の食物アレルギーの原因が、これまで信じられていたアレルゲン経口摂取によるものではなく、湿疹などを原因とする経皮感作によることが最近証明された。これにより、離乳食の開始を遅らせる従来の食物アレルギーの予防法とは逆に、離乳早期からアレルゲンを摂取することで食物アレルギーが予防できることが発表され、国内外で注目されている。しかし最近の減感作療法医療事故が示すように、離乳早期からのアレルゲン摂取の可否や、そのタイミングを医療現場でどのように判定したらよいか手探り状態にある。

我々は新たに開発した高感度 DCP (Densely Carboxylated Protein) チップ法で、微量の血液でイムノグロブリンクラススイッチのモニターと IgE 抗体の抗原親和性の測定を可能にした。その結果、ヒト IgE には Low affinity と High affinity IgE の 2 種類のサブタイプのあることが明らかになり、これまでの測定方法では検出できなかった Low affinity IgE が、経口免疫寛容の成立に深く関与していること等、アレルギー免疫学の新たな扉を開く可能性が示唆されている。本セミナーでは、DCP チップ法が切り開いた抗原親和性の異なる IgE 抗体の生理的・病態学的意義について、最新知見を紹介したい。

講師

木戸 博 先生

徳島大学特任教授・名誉教授 先端酵素学研究所

座長

松田 幹 先生

名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授



木戸 博 先生 略歴

1973 年弘前大学医学部卒、1977 年徳島大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程終了、同医学部附属病院医員。1979 年米国ロッシュ分子生物学研究所 研究員を経て、1981 年徳島大学助手。1989 年同助教授を経て 1993 年徳島大学教授に就任。

2007 年～ 2011 年、徳島大学疾患酵素学研究センター長、徳島大学役員参与 (研究担当)、2013 年徳島大学疾患酵素学研究センター特任教授 (名誉教授)、2016 年同先端酵素科学研究所 (特任教授) 就任、現在に至る。

日本生化学会 (永年会員・評議員)、International Proteolysis Society (President 2009-2011, Vice President 2001-2005)、日本病態フロテアーゼ学会 (理事、評議員)、日本界面医学界 (理事、評議員)、日本アレルギー学会、日本ワクチン学会、日本感染症学会に所属。専門は生化学、分子生物学。